

会員交流会(電気・機械グループ)開催

①「TRIZ(発明的問題解決の手法)の紹介」、②「特許調査の実情」

会員交流会(電気・機械グループ)が11月19日に住友クラブで開催されました。当日は18名が参加し、前半が交流会メンバーの福村三樹郎氏の報告「TRIZ(発明的問題解決の手法)の紹介」、後半が「特許調査の実情(1件当りの時間、海外の調査等)」のテーマで、グループリーダーの井内龍二弁理士の司会で論議されました。

前半(TRIZの紹介)は、TRIZとは膨大な特許の分析から法則性を導き出した発明的問題解決の手法であること、旧ソ連で戦後展開されソ連崩壊後に西側諸国に流出しCPU技術と結合し更に発展したこと、TRIZの5つの考え方(①矛盾、②理想性、③機能の概念、④リソースの活用、⑤多面的思考)や40の発明原理一覧の簡単な紹介、針糸の事例の紹介(「縫う」を止める、「針使用」を止める、「接合」と捉える等)、導入のためのソフトが高価なこと、等々のご説明がありました。

質疑応答では、解決手法が多過ぎ、どの原理を使うか分からないとの質問に対し、何がやりたいかが重要でそれによって使う原理の絞り込み可、等があり、TRIZについての理解が深まりました。

後半の「特許調査の実情(1件当りの時間、海外の調査等)」では、生々しい内容を詳しく紹介できないのが残念ですが、以下のような報告や課題、悩みが述べられました。

- ・新規事業化前、出願前、審査請求前、侵害判断等の目的や業種で調査時間は大きく異なる。
- ・調査ツールは、商用(有料)システム利用、無料システム利用、併用の企業と様々。
- ・調査結果を社内で既にデータベースにしている企業とこれから構築していこうとしている企業がある。構築する場合、いつの時点のものからデータベース化すればよいのか？
- ・だれが調査するかについても、社内で調査(知財部員か担当技術者、両者で)、調査会社に外注(すべての案件か、内容や量により選別して外注)、といろいろ。
- ・課題、悩みとしては、新事業や海外案件により、近年、調査の工数が増えてきていて困っている、まったく馴染のない新分野の調査の場合、どこから手を付ければよいのか分からない、知財部から技術動向をまとめて提案しても技術部門から反応がないなどが出され、リーダーの井内弁理士や他のメンバーから大変有益なアドバイスをいただくことができました。

【次回の予定】 電気・機械グループ:1月14日(水) 14:00~17:00

テーマは、検討中。

なお、化学・材料グループは、12月10日(水) 15:00~17:00に「翻訳や海外展開での課題(苦労していること)」の予定です。

※会員交流会には、いつでも参加できます。ご希望の会員は当協会の事務局にご連絡ください。